

佐田白茅 はくぼう 漢學者。天保二年十一月十日筑後國生乳、明治四十年十月五日歿（一八三二—一九〇七）。諱直寬、通稱素一郎。別號大來、閒放。嘉永五年自昌平校學問所入學、心、安政八年藩醫明善堂院長となる。會攘運動に加はり、文久二年幽閉處分。維新後徴士、明治二年朝鮮に遣はされ、翌年往韓の建白書を提出した。四年致仕、爾來大來社を主宰、史談會を興し、幹事となるなど、文筆に過した。

著書に、『極論開化』（明治八年四月忠告書房樓藏版、柳原喜共衛・岡田文助發兌）、『近世文體』全二冊（編、明治十年十一月山梨・内藤書屋）、『大來社叢書新評・第一編』（編、明治十一年四月大來社）、『學校讀本』『記事文格』（編、明治十一年十一月小引・大來社）、『續近世文體』全二冊（編・大來社評解、明治十二年一月内藤傳右衛門出版）、『國體一覽（筆習字本）』（長三洲書、明治二十四年八月自刊、吉川半七發賣）等。